

チャレンジ

～ BLUE POWER ～

大和市立つきみ野中学校
第2学年 学年だより第10号
令和元年 7月11日発行

キャンプを終えて（作文紹介第2弾）

三者面談にお越しくださり、ありがとうございました。1学期も残すところ、あと1週間です。すっかりしない天候が続きますが、学年・学校の活動にご理解、ご協力のほど、よろしくお願いします。今回の学年便りは、キャンプを終えての作文第2弾をお届けします。キャンプが終わりどんな気持ちとなったのか、どんな思いをしていたのか、ぜひご一読ください。（作文の文章は原文のままです。ご了承ください。）

『我々の努力』 2年1組 生徒1

バスの中はとても騒がしく、寝れる環境では全くなかった。「曲流せ!!」とマイクを使い、歌わないのに大音量でリクエストする工法の男子。「OOが歌って～!」と他人にマイクを押しつけ、歌わせる男子。いつの間にかカラオケボックスとなった201の車内。前方の席から後方へ送られる冷たい視線。車酔いのクラスメイト。急に始まる謎の怖い話。キャンプ場につく前からHPの8割は削られた気分だった。

風穴到着。穴の中はコストコの冷蔵庫に似ていた。Tシャツ短パンで突っ込む戦士たち。先生の忠告など聞かず、奥へ奥へと進んでゆく。その目はまるで苦しいサバンナの環境に負けず、必死に生きるライオンのように輝いていた。

そんな時間もあっという間に過ぎ、キャンプ場にやっとキャンプ場についた。まずはバンガローへ。。しかし、そこで目に入ったものは隣のバンガローとはかけ離れた小さな、小さなバンガローだった。運命は運命。仕方がない。

布団を運ぶ。これは、布団対我々の勝負である。雨という悪天候の中、広がりたがる布団をどれだけHPを削らずにバンガローへ運ぶか。レインコートで布団をつつみ、反り立つ直角の坂をのぼるとやっとゴールが見えた。しかし、バンガローの階段が狭く、とても苦労した。この戦いは我々の勝利で終わった。

疲れたので休もうと思ったが、すぐに炊事の時間がやってきた。火と戦うのは辛かったが、シャバシャバを超えてピチャピチャのカレーを空にするのはさらに大変なことだった。じゃがいも、にんじん、たまねぎは『チャート』よりも固く、とてもハヤシライスとは言えなかったが、みんなで協力して作ったものなので、おいしい先の何かを感じた。しかし、何よりも大変だったこと。それは、炊事用具にこびりついた汗と涙を一つ残らず駆逐することだった。とても長い戦いだった。スチールウールが壊れても、我々は戦い続ける。。。。



【1日目 炊事の様子】

やっとのことで終結が告げられたが、結果は後日。

1日の最後はキャンプファイヤー。あいにくの雨で室内スタンプになったが、大いに盛り上がった。

— 就寝 —

2日目。我々はキャンプだホイの美声とともに目を覚ました。朝食を食べ終わると、布団の撤収作業が始まった。雨はそんなに降っていなかったため、楽に片づけられた。前日の炊事用具のチェックを受けに行った。「OK」のその一言に我々はホッとした。

その後、各クラスごとに並び樹海へ行った。以外にも道が整備されていて歩きやすかった。『眠い』と言ったら、樹海でところどころ空いている穴の中に入って写真を撮るというゲームをしながら、無事に出てくることのできた。

我々は昼食を食べ、残りの時間を楽に過ごした。もうこの後に戦いは控えていないことに安心してゆっくりしていたが、帰りのバスが待っていた。「カラオケはやめて・・・カラオケはやめて・・・」急に不安が押し寄せてきた。やっぱり車内は騒がしかった。マイクを使わなくても、歌っていたり、もう終わったスタントをまた大声でやり始める後方の人々。

帰りもまた、前方から後方へ冷たい視線が送られるのであった。

『大雨キャンプ』 2年1組 生徒2

正直、キャンプ前はとても不安だった。スタントもなかなかまとまらないし、クラス全体で協力できるとはとても思えなかったからだ。しかも私は要領がよいわけでもない。どちらかと言えば悪いくせに、班長・ファイヤー委員というキャンプにはとても大事な役割を持っていた。それに相方が福岡くんというとても優秀で要領の良い人だったから、それがプレッシャーだった。

でも、周りの“女子”達は協力してくれたし、とても一生懸命に取り組んでくれたから、とても信頼できたし、キャンプを通してとても仲が深まったと思う。キャンプ当日はあいにくの雨で気分や雰囲気が悪かったが、卯先生が盛り上げてくれたりしたので、バスレクからとても楽しかった。また、炊事で井手君や荒川君が率先して働いてくれたので、おいしく、楽しくカレーを食べることができた。ありがとう！

キャンプファイヤーでは、中でろうそくをとす形となったが、そのおかげか、想像以上の青学年の一体感を感じた。そして、心配していたスタントも、みんなからとてもクオリティーが高いと褒められ、『ハカ』や『ダンス』、『PayPay』も大成功に終わった。

また、エールマスターをしていると、中でやっても小さくならない青学年の声が去年一年間で深めたきずなを感じさせた。

私自身、このキャンプの反省点もいくつかあったのだが、それ以上の思い出や“えがお”がたくさんできて、とても良かったと思った。これからも残り少なくなった青学年のみんなとの時間を大切にしたい。



【2日目西湖湖畔でクラス写真】

『不安だらけだったキャンプ』 2年4組 生徒3

自分は宿泊の経験はたくさんあったけど、つき中の青学年みんなで宿泊、ファイヤーをするのは楽しみだったけど、同時に少し不安だった。でも不安の気持ちがあったのは自分だけではなかったと思う。

ファイヤー・スタント・炊事・当日の流れ。それぞれの中で「きちんとできるかな。」と思っていた。でもその中でみんなで「不安」を消せるくらい盛り上がりたり楽しめたりできた。キャンプファイヤーではファイヤー実行委員として盛り上げなきゃいけないし、恥を捨てなきゃダメだし、自分に責任があると感じた。そのためのたくさん練習してきたのに、本番はたったの1、2分間だけ。少し悔しかった。でも本番になって思いっきりやり終わったあとには、悔しい気持ちは一切なく、楽しく終わった。自分の中では成長したと思う。

次はスタント。ファイヤー実行委員のあとにすぐにスタントで安心できなかった。スタントは教室の中で何回も練習したけど、スタントの本番が終わるまで安心できなかった。スタントはあまり良く終わらなかったけど、一生懸命やってくれる人がいてすごく嬉しかった。



【2日目樹海ハイキング】

また、炊事ではカレーの作り方も野菜の切り方もあまり知らない自分が炊事係なんてできるか本当に不安でどうしようもなかったけど、本番の炊事が始まると「不安」よりも「楽しい！」とか「食べられれば何でもいい

よね！」とかそんな声が聞こえて、みんなで笑い合いながら本当に楽しい炊事ができてよかった。今年の大きな行事の1つのキャンプは全部が全部良い結果にはつながらなかったけど、それも含めて全部が全部青学年の絆や個人の成長につながったと思う。この経験をいかして、運動会や文化発表会、修学旅行に繋げていきたいと思う。



【西湖湖畔でクラス写真】

『あつというまの2日間』 2年4組 生徒4

キャンプが終わって作文を書こうとした今、「キャンプ、あつという間だったな。」と感じました。この2日間の楽しかったこと、苦労したことなどを振り返ってみたいと思います。

まず、キャンプが始まる前の日、楽しみで少し不安な気持ちもありました。忘れ物をしていないか何度も確認しました。そしてキャンプ当日、まさかの雨。テンションは少し下がったが、学校でみんなと会ったとき、なんだかこの仲間たちと過ごす2日間がとてもしみじみになっていました。

バスでは係の人が考えてくれた「タケノコニョッキ」などのバスレクをして、みんなで盛り上がりました。そしてついに氷穴に着きました。氷穴の中はとてもしみじみて、頭上に岩があり、うっかり頭をぶつけてしまいました。でも、とてもキレイで感動しました。

そしてキャンプ場に到着して、開村式をしました。キャンプファイヤーのスタンプ、炊事など成功できるか不安もありましたが、やっぱりキャンプへのワクワク感の方が大きかったのを覚えています。そして一番成功するか不安だった炊事！！そこでまさかの忘れ物。何回も確認したのに…。それでもなんとかおいしいカレーとお米を作ることができました。みんなで作ったカレーはやっぱり最高！！

そしてまちにまた「キャンプファイヤー！！」といっても、雨だったのでかわりに「キャンドルファイヤー」をしました。最初は眠くてしょうがなかったが、いつのまにか眠気が覚め、みんなと歌ったり踊ったりして楽しみました。この「キャンドルファイヤー」は僕にとって一生の思い出になると思うし、クラス、そして学年全体のきずなもまた深まったと思います。

2日目はハイキング。多少雨が降っていたため、クラス全体で行動することになりましたが、とても楽しむことができました。

この2日間のキャンプで青学年全体の目標、クラス目標、個人目標のどれも成功させることができたのではないかと思います。キャンプで学んだことをこれからの学校生活に活かしていけるようにしたいです。



【5組 クラスダンスの様子】

『最高の青学年』 2年5組 生徒5

僕は7月10、11日のために、半年をかけて準備してきた。放課後や昼休み、自由な時間を使ってまでキャンプを成功へ導きたかった。中央委員と実行委員でキャンプ目前準備に取りかかった。最初は大変でちょっとつらかったけれど一つ一つの積み重ねがキャンプを成功に導くことを知ってから自分もやりながら楽しくなり、キャンプファイヤーの実行委員が始まった。僕はエールマスター、青学年を盛り上げる役を務めることになった。最初は分からなかった。少しずつみんなか



らアドバイスをもらいながら前へ進んでいった。時に自分たちも盛り上がり、楽しくキャンプの準備が出来て何よりうれしかった。キャンプファイヤーの人たちが面白かったです。放課後、1時間2時間と練習をし、自分たちも楽しかったからものすごく印象に残っている。あの練習があったからキャンプ当日も最高に楽しくなると思った。そしてキャンプ前日の放課後、もうすでにキャンプにいるみたいに実行委員は盛り上がっていた。自分たちからキャンプを盛り上げないとキャンプが成功しないけど、もうみんなは盛り上がっていてバカに



【ファイヤー場でのクラス写真】

なっていた。人生の中でこんなに楽しく出来たことを経験できてよかった。そして実行委員で円陣を組んでキャンプに進んでいった。人生の中で半年もかけて成功を願うことでも初めてだったキャンプは大雨だった。あのキャンプは雨だったから楽しくできたと思う。そして自分が一番練習したファイヤーが始まった。半年かけてきたキャンプファイヤーも最高に楽しかった。けど実行委員としてみんな準備できなくなるのがちょっとさみしかった。自分は今回のキャンプで笑顔が大切って事が気づけた。あれほど準備してきたキャンプも終わり、最高

で楽しかった青学年全員で作ったキャンプは一生の思い出になった。

『キャンプを終えて』 2年5組 生徒6

今日はキャンプ1日目。私達は大きなバックを1つと小さなバックを1つ、それから傘を1本持って学校へと向かった。雨に濡れないよう、気をつけながら歩き学校に着くと、青学年の仲間達がいた。友達と朝の挨拶をして体育館へと足を運んだ。キャンプ1日目、初めての整列・点呼をとり班員が全員いることを確認した。少し経って「気をつけ、礼」の合図で出発式が始まった。各係からの注意事項や目標、スローガンを再確認し、1組から順にバスに乗り込んだ。全員が席に着き、運転手の挨拶と共にバスは動き始めた。各班長が考えたバスレクを楽しんでいると、あっという間に風穴に着いた。寒い中を歩き、風穴の外へ出た瞬間とても暖かく感じた。それからもう一度バスに乗り、スタンプの確認をしていると大きな湖が見えてきた。「これが西湖か、」私は初めての西湖にとても感動した。しかしじっくり感動している暇もなくクラス写真を撮り、就寝バンガローへと歩いた。しばらくして班ごとの炊事が始まった。そこには思ってもみなかった難関が多く立ち並んでいた。まずは自分の担当の仕事をこなし効率良く作る予定だったが、じゃがいもやにんじんの皮をむくのに苦戦した。それから火をおこした。まずはお肉を焼こう！そう言って鍋に油とお肉を入れ、火の上に鍋を置いて肉に火が通るのをまった。何十分かして火が通ったか見てみると、良い感じに焼けていた。次に野菜達を鍋に入れ、少しして水を入れた。じゃがいもやにんじんにさいばしが通るようになった頃、カレーのルーをいれた。かき混ぜながら様子を見てみると、そこで出来上がったのは「カレー」ではなく「カレー水」だった、、、。それを見て、班で笑い合っていた時、みんなの炊事を手伝っていた方の魔法の手が加わった。すると私達の班のカレー水はみるみるうちにカレーに変わっていた。鍋の下にたまっていたカレーのルーを溶かしてくれたのだ。ご飯も炊き終わり、班の生活バンガローに集まり、みんなで「いただきます」を言って食べ始めた。少し辛かった。でもそんなことよりも自分たちで苦労して作ったカレーはすごくおいしかった。今回のキャンプで気がついたことは、全ての行事、学校生活において、私だけではどうにもならないことも青学年の仲間の協力や私達を楽しませようと裏で支えてくださっている先生方がいるからこそ、成り立っていることが分かった。この学びを毎日の生活やこれからの行事にいかしていこうと思った。



【1日目の様子】

《素敵な作文ありがとうございます！よかったことも改善すべきことも2学期へ活かしましょう！》